ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

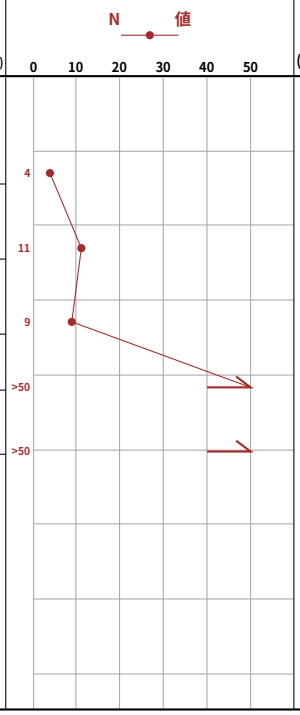
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1	調査位置						北　緯	36 ° 44 ’ 29.9170 ”
発注機関	栃木県日光土木事務所			調査期間	2008-11-07 ～ 2008-11-13			東　経	139 ° 36 ’ 31.5140 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	672.75 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 45.00 °	使用機種	
総掘進長	8.00 m							試錐機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	671.05	1.70	1.70		礫混り粘性土 (C-G)	暗黒褐			最上部は有機質シルト、-0.70m下部褐色帯びたシルトに少量の礫混じり、全体に軟らかい		
2	669.05	2.00	3.70		シルト混り砂礫 (GS-M)	暗灰			径10～50mm角礫散在、シルト全体に混じる、礫種は、砂岩主体、風化礫（粘板片混じる）		
4	668.55	0.50	4.20		礫混り粘性土 (C-G)	暗灰			全体にシルト分が多く混入する砂礫状を呈する。含水中位、。		
	668.15	0.40	4.60		玉石 (B)	暗茶			径30cm程度の砂岩の硬質玉石主体。新鮮硬質		
5	664.75	3.40	8.00		砂岩 (Ss)	暗灰			上部GL-5.20mまでシルト分の多い砂岩との互層で、亀裂の発達が著しく、礫～岩片状を呈する。岩質は割れ目に沿って若干風化を受け軟質化している。以深、コア長10～30cmの柱状コア主体。亀裂面やや開口し、亀裂面は赤褐色の酸化鉄で汚染されている。亀裂は層理面に平行する20 ° 前後と、それ斜交する方向が認められる。岩質は砂岩部は堅硬緻密であるが、GL-6.80～6.90m間・6.58～6.90m間粘土分が多く頁岩状の部分は割れ目の発達が著しい。GL-7.58～7.75mは間頁岩で黒色を呈し片理のため礫状コア(CL級)。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	2	4／30	4
1.45					
2.15	4	4	3	11／30	11
2.45					
3.15	5	2	2	9／30	9
3.45					
4.15	50／6			50／6	>50
4.21					
5.00	50／7			50／7	>50
5.07					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/10
						11/11
						11/12